授業づくり研修講座　実践レポート

相模が丘小学校　　氏名　林下　亜希子

単元名　第５学年　「グループ新聞」

実践のポイント（工夫）

　・単元の始めに、自分たちが通っている学校のよいところを紹介すること、知らせる相手は普段から交流のある２年生であることなど、目的や相手を明確にした。伝える相手が２年生ということで、２年生に分かりやすい内容や書き方にすることを意識させた。

実践内容

1. 新聞作りの見通しをもたせる。

→新聞の目的（学校のよいところ）や相手（２年生）を知らせ、取り上げたい内容を考えさせた。

1. ２年生に知らせたい、教えたいことを考え、取り上げる内容を考える。
2. 取材をさせる。

→どんな情報があれば説得力があるのかを考えさせてから、取材をさせた。

1. わり付けを考える。

→なにを一番に伝えたいのかを考えてわり付けを考えさせた。

1. 記事を書く。

→記事の例を提示して伝えたいことが伝わる工夫を考えさせた。

→よいところを伝えたいという目的に合った内容を中心にして、２年生が読むことを考え、読み手を意識して書かせた。

・一文を短くする。

　・事実と意見・感想を区別する。

　・理由や根拠をはっきりさせる。

1. グループで記事を読み合って推敲し、記事を完成させる。
2. 新聞を読み合い、感想を交流する。
3. 新聞づくりを振り返る。

振り返り

　・伝える相手を明確にしたことで、書きたいという意欲が高まった。「書く」という活動に苦手意識を持っている児童も、目的がはっきりしていることや取材をして情報を集めたことで「書く」ことへの抵抗感が減っていた。書き方や内容を２年生に分かりやすくしようとする工夫もみられた。しかし、学習活動の一つとしての取り組みなので、日常的な活動にも「書く」活動を取り入れていきたい。